

急ピッチで進む 圏央道建設工事



▲坂東IC 平成26年11月撮影(東日本高速道路・水戸工事事務所)

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の建設工事が市内各地で進められています。圏央道は、今年度中に東北自動車道久喜白岡ジャンクションから境古河インターチェンジ間19・6kmが開通する見込みで、来年度中に茨城県内全線開通が予定されています。

市では、圏央道坂東インター・エンジの周辺開発として、交通の利便性を活かして、企業の誘致を進め、就業の場や収税の確保を図ります。



▲茨城県内の整備状況(関東地方整備局)

まちづくり まちづくり

坂東市長 吉原英一



まちづくり まちづくり

坂東新時代を拓く圏央道を
活かしたまちづくりと
安心快適生活のための
まちづくり

古来より人の生活に道は欠かせないものでありました。人が移動し草を踏み固め、それが道になりました。人が移動し草を踏み固め、それが道になりました。古代から国づくりの基本として計画的に道路が整備され、今もその面影を残しています。「道」を使った格言に「全ての道はローマに通ず」という言葉がありますが、私はこれがまちづくりにつながるものと考っています。まちづくりに直結する道

路として、念願でありました圏央道の開通が目前に迫っています。急ピッチで工事が進む様子を目にすると、「いよいよ坂東の新時代がやってくるな」と気持ちが高揚します。

圏央道は、都心から約40km～60kmの位置を結ぶ延長約300kmの環状道路で、東京から放射状に延びる常磐道、東北道など9つの高速道路を連結し、沿線には横浜、八王子、つくば、成田などの中核的な都市があります。平成27年度には、坂東ICが設置される予定で、全国との人・もの・情報、資本の交流連携が活発になる新时代を迎えます。これを、産業経済、観光、生活向上などさまざまな面でまちづくりに活かしていくため、工業団地の整備や弓田地区に設置される圏央道PAの隣接地に交流拠点の整備などの事業を進めていきます。

そして、これらの基盤となる道路ネットワークづくりとして、国道354号岩

井バイパスにつきましては、本年全線開通となる見込みであります。結城坂東線バイパスにつきましても、岩井中学校から国道354号岩井バイパスまでの区間が開通する予定です。また、圏央道坂東ICに接続する新設道路の整備を進めていきます。道路整備は防災や快適な住環境の観点からも重要な課題を投げかけています。市ではとりわけ高い安全性が求められる橋りょうや通学路について総点検を実施し、危険箇所の把握や整備を行っています。道路の維持補修、生活道路の改良事業についても、市民のみなさんのご要望や危険箇所を把握しながら、重点的に進めています。

「ローマは一日にしてならず」と申しますが、日々坂東市が発展していくよう、市民のみなさんと一緒に歩一歩事業を進めています。